

令和5年度福井県立三国高等学校 学校評価書

令和6年2月

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援	授業改善やICT教材の活用をとおして、生徒の興味・関心を引き出す授業づくりを行う。	「生徒が自ら学ぶ姿勢を育むことを支援するための授業改善に積極的に取り組む。」に関して、「積極的または概ね取り組んでいる」と答えた教職員は100%で目標指数を達成できた。今後さらに教職員の意識を高め、実践できる体制作りが必要である。 「生活の中での学習の取り組み」に関しては、「積極的または概ね取り組んでいる」と答えた生徒は86%であり、目標を達成した。年々わずかながら増加していることから、自ら学ぶとする生徒が増えていると思われる。 「保護者から見た生徒の生活の中での学習」については、「積極的または概ね取り組んでいる」と答えている保護者は75%で、目標を達成した。	教員の授業改善に対する取組みは目標数値を達成できているが、今後さらにICT教材や学習支援アプリの導入、採点支援システムの活用など、学校DXに向けた取組を進める。 今年度も学期ごとに面接週間を設けて、担任が生徒一人ひとりに定期的な面談を実施し、個々が抱える問題の早期発見・解決に努めている。そのような地道な取り組みが少しずつ成果を上げていると思われる。今後も個別の学習支援を進める。
進路支援	a. 生徒が、自己の志望する進路について関心を高めることができるように支援する。	生徒の進路意識を高めることは目標指数を達成することができた。しかし教職員の「適切な進路情報の提供や進路ガイダンスを実施する。」に関する評価が目標指数に到達しなかったため、進路情報の内容やガイダンスのあり方を進路支援部だけでなく教職員全体で考える必要がある。また、保護者の「学校からの進路情報をもとに、子どもと進路について話し合う。」に関して、あまりできていない、またはできていないが30%近くあったため、進路情報の提供方法などを検討する必要がある。	生徒が進路意識を高め、進路目標を明確に設定できるように、年度初めの学年別進路オリエンテーションと5月の進路ガイダンスの内容をさらに工夫して実施する。また、教職員全体で進路支援について協議する場を設け、共通理解を図る。さらに進路だよりを発行するとともにHPに定期的に掲載し、適切な進路情報をもとに進路について家庭で話し合える環境を整える。
	b. 生徒が、自己の進路実現に必要な実力を高めることができるように支援する。	概ね目標指数は達成し、数値も昨年より上昇した。しかし、生徒の「補習・模試や個別指導に積極的に取り組み、学力の向上に努める」に関して、あまり実感できなかった。または実感できなかったが20%近くあった。進路実現に必要な実力・学力を生徒が理解し、各自の意欲を高められるよう個々に応じた支援を行う必要がある。	個々の生徒の適性、進路志望等の情報を部内や学年会で分析・共有し、日ごろの授業はもとより補習や模試で弱点克服に活かす。また、増えつつある総合型・学校推薦型選抜入試に対応すべく、面接や小論文の対策指導も強化する。
生徒支援 人権教育	a. 生徒が学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組むことによって、学校生活への充実感や自己肯定感を育成する。	教職員の「主体的な取り組みに対する支援」、生徒の「主体的な取り組み」、保護者から見た「生徒の主体的に取り組む態度」は、目標指数を上回り、目標を達成できた。今後も生徒が主体的なものごとに取り組むための仕掛けを工夫するとともに、保護者には生徒が学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んでいる様子を知らせていく必要がある。	様々な行事・活動において、生徒が主体的なものごとに取り組むための仕掛けを工夫するとともに、保護者に生徒が学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んでいる様子を機会を捉えて知らせていく。
	b. 自尊感情・共感能力・想像力・人間関係調整力等を備え、自分の良さとともに他者の良さを認めることのできる生徒を、すべての教育活動を通して育む。	教職員の「人権尊重の観点に立った教育」は、目標(100%)を達成できなかった。今後も一層「人権尊重の観点に立った教育」について教職員の理解を深めていく。生徒の「人権尊重の態度」、保護者から見た「生徒の人権尊重の態度」も、目標指数を上回り、目標を達成できた。保護者に生徒がお互いの違いを理解し、自分も他人も尊重している様子を知らせていく必要がある。	教職員が人権教育の校外研修会に積極的に参加できる機会をつくるとともに、工夫した校内研修会等を実施して教職員の人権意識を高めていく。保護者に生徒がお互いの違いを理解し、自分も他人も尊重している様子を知らせていく。
地域との 連携	地域人材と協働して行う『地域協働プロジェクト』を軸に探究学習を推進する。	文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の研究指定が昨年度で終了し、本年度は研究成果を生かしながら自走することとなった。「新・三高地域魅力化プロジェクト」と銘打って、地域との協働による探究学習をさらに進めるために、フィールドワークやインタビューなどを通じて地域の方や外部の方と関わる機会を増やした。大人の人と連絡を取るのに話し方など苦労している生徒もいたが、直接当事者の方と話すことで自分たちの課題や解決策を深められた生徒もいた。ただ、活動の時間にゆとりがなく、しっかり時間を取って調べ、情報を整理し、考えをまとめ、表現することが十分にできていなかった。	地域との協働による地域探究を軸に、探究学習を進めていくが、授業内容を精選していくことで、課題設定、情報の収集、情報の分析・整理、発表・まとめという探究のサイクルを十分に時間をかけて回せるよう改善していく。その中で、教員の支援では解決出来ない案件については、積極的に地域の人材や外部の有識者の方とコンタクトを取り、支援を求めていく。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
安心・安全な学校	<p>a. 保健情報の発信や「こころのアンケート」の実施等を通して、生徒の心身の健康を保つことに努め、問題の把握と早期対応を進める</p> <p>b. 清掃等の美化活動を通して、環境整備に主体的に取り組もうとする生徒の意識と態度を育てる</p>	<p>保健室から内科・歯科などの検診結果について、生徒・保護者に情報発信し、心身の健康の保持を促した。また、月1回程度行われる「心のアンケート」などの結果を教職員で共有し、生徒の心身の健康状態の把握や、生徒の悩みや不安について保護者と連携しながら、早期発見・問題解決に努めている。</p> <p>歯科検診については、保護者会などを通じて、虫歯治療を促しているが、未治療者がまだ20名程度残っている。</p> <p>教職員・生徒・保護者ともに、目標指数を上回った。生徒の約99%が「真面目に清掃活動に取り組み、校内の環境美化に努めている」と回答している。保護者からも約91%の方に「学校の環境美化が十分またはおおむね行き届いている」と評価していただいた。そのうち「十分行き届いている」との評価は約10%であり、この割合を高めることが課題である。</p>	<p>生徒の心身の健康の保持については、保健室や相談室の検査、アンケート、面談等を通して、早期対応に加え、未然防止の効果を高める。また、これらの活動により心身の健康の状態について自己理解を深め、主体的に問題を解決しようとする態度を養う。また、適切な支援のもとで適応力や解決能力を高める。</p> <p>虫歯治療については、「保健日より」等の啓発活動を積極的にを行い、保護者の協力を得ながら治療率を高める。</p> <p>日々の清掃時間における活動の充実を維持するべく、清掃指導を丁寧に続け、普段から生徒の環境美化の積極的な取り組みを促す。また、美化週間や定期的な大掃除などを設定し、清掃指導や美化委員会の活動を通して、自発的に環境美化に取り組もうとする意識を高める。</p>
積極的な広報活動の実施	<p>オープンスクール・学校説明会・HP・SNS等を通して、小中学生・保護者・地域へ積極的に情報発信を行う。</p>	<p>オープンスクールでは在校生が中心となって活動し、参加中学生に本校の魅力を伝えている。また、保護者対象学校説明会でも、在校生に加え卒業生にも参加してもらい本校のPRを行っている。</p> <p>三高ニュースを校内に加えて、坂井市・あわら市の中学3年生に配布する事業は2年目となる。これについては進路選択の資料となっているというアンケート結果もでている。学校のHPやInstagramにアクセスしやすいようにQRコードも付けるようにした。そのため、HPでは7月以降で1万回のアクセスを記録し、Instagramでも11月から1月の3ヶ月で1万2千ビューを獲得した。メインターゲットの中学3年生だけでなく、兄弟姉妹、家族、地域への情報の拡散も期待している。</p> <p>今後の情報発信に関して内容の魅力化、見せ方の工夫、効果的な手段の検討などさらなる充実のための方策を検討する。</p>	<p>保護者や地域の意見を収集し、より魅力的な情報を発信できるよう心掛ける。</p> <p>HP作成にあたっては、動画などのコンテンツを入れていく必要もあり、改修も視野に検討を進める。また、情報発信が効果的にできるような組織の検討を進める。</p>
業務改善の取り組み	<p>業務の見直し・精選・削減の取り組みを前年より進める。</p>	<p>当初実施予定であった業務改善のための職員研修ができなかったこともあり、目標とした指標（80%）には到達しなかった。それでも67%の教員が業務の見直し・精選・削減に取り組むことができた。これまでも教員ができる業務改善については十分進めており、取り組むべき内容が少なくなってきた面も窺える。一方で今後も継続的に行事・業務を精選・削減しようという意識を持ち続け、実効ある業務改善を推進することが課題である。</p> <p>なお、時間外在校等時間が月80時間を越える教職員は目標のゼロを達成できず、延べ8人となってしまった。一方、平均年休取得日数は約12.5日と目標の10日以上を達成できた。</p>	<p>業務の見直し・精選・削減に取り組む意識を醸成するために、年度の早い時期に職員研修を計画し、最初から意識が高まるように努める。</p> <p>時間外在校等時間ゼロが達成できるよう、4月から教職員の意識付けを徹底できるように目標の共通理解を図る。年休取得日数についても、気軽な年休が取れるような職場の雰囲気作りをさらに進める。</p> <p>業務改善に関連して、今後学校DXを推進する観点を導入する。</p>